

# 電波望遠鏡 模型を公開

## エキスポセンター 筑波大などと南極設置計画

筑波大などのグループが「ヘルツ望遠鏡」の模型が、南極での設置を計画している。ヘルツ望遠鏡「テラ」

つくばエキスポセンター（つくば市吾妻）で一般公開されている。



電波望遠鏡の模型について子供たちに説明する中井教授（左）

つくばエキスポセンターで一般公開されている。ヘルツ望遠鏡「テラ」は、直径10メートルのアンテナを持つ新型望遠鏡で、観測できる範囲も広く、遠方の銀河を効率良く探すことができる。銀河から届く「テラヘルツ波」と呼ばれる電波の観測を狙う。地上の望遠鏡では大気中の水蒸気に電波が邪魔されるが、標高が高く気温の低い南極は水蒸気が極端に少ないため、観測に適している。

グループは仏伊が共同運

用するコンコルディア基地への設置を見込んでおり、今後必要な予算の獲得を目指す。

筑波大の中井直正教授（電波天文学）は「南極から暗い銀河を観測しようという試みをぜひ実現させたい」と話している。